

秘境秋山郷と米子大瀑布& 松川溪谷を巡る

10月24日～25日、クラブツーリズム主催のバス旅行に友夫婦と一緒に参加した。平家の落ち武者伝説の残る、2,000mの山々に囲まれた秘境秋山郷を初めいずれも最高の紅葉が期待できる所だ。

中央道. 長野道から上信越自動車道で中野市へ

7.30に名古屋駅をスタートしたバスは名阪近鉄バス、車両は日野自動車の新型バスで、ガイドさんが自慢そうに説明してくれた。どこが新型かといえば、床がバリアフリーで段差がない、エアコンは飛行機のように、各席毎の噴出し口が設けられている。そして12列の48席に満員のお客さんを乗せて、何故か一の宮から高速に入り恵那峡SAで最初の休憩をとり順調に走った。ガイドの千春さんの、沿線の説明を聞きながら進む。最初にそうかと思ったのがトンネルの長さ比べ、恵那山トンネルは現在①関越トンネル②東京湾アクアラインに次ぎ第三位。しかし、来年3月には東海北陸自動車道の飛騨トンネルが開通すると、これが第2位で、恵那山トンネルは4位になってしまう。この恵那山トンネルに使われている照明の料金は、年間3,000万円という。ホントかいなと思う。



どこまでも長芋畑が広がる



リンゴ畑

バスは恵那山トンネルを越えると伊那平を走り長野道へ入る、昔はとても難儀をした塩尻峠をトンネルで抜けると、国産材のみで造られた唯一の松本

ドームが見えてくる。さらに、鳥城の別名がある黒い松本城が小さく見える。するとまもなく梓川 SA で、11.00 到着ここで二度目の休憩。

SA を出るとまもなく変わった地名があった、「麻績村」と書いてオミムラと読む。これはちょっと読めない、そして、一本松トンネルを抜けると姥捨 SA だ。ここは名月の里として有名な「田毎の月」の棚田があるところだ。そして、杏で知られる更埴市で上信越自動車道へ入り、すぐに松代だ。ここは真田氏の城下町だが、松代城は甲斐の武田信玄によって築かれた海津城が始まりで、後に上田から真田信之が移る、そして、真田三代目藩主幸道の時幕命により松代城と改名された。それと、松代で有名なのは「長芋」で高速道の沿線は長いも畑が延々と続いている。

長野 IC. 小布施 PA を過ぎて 12.00 信州中野 IC で高速を降りる、バスの料金は 17.350 円で、一人当たりになれば 361 円。このように考えるとバスは定員一杯乗っていればかなり安いと思った。

ここ中野市はグリーンアスパラ、ぶどうの巨峰は全国一の生産を誇っているという。インターを出てすぐの信州フルーツランドで休憩、周りにはリン畑も広がり早速りんごの試食。陽光・富士を初め 4 種類が並び、みんな、かわるがわるつまんでいく。店先に並ぶ大きなリンゴは、かなりの値段がついておりとても買えそうにない。それでもいろいろなリンゴが出ており、買うお客さんも多い。それとみんなが買っていたのは、リンゴ味やブルーベリー味のソフトクリームだ。

千曲川沿いに新潟県の津南へ向かう

千曲川と JR 飯山線に沿って国道 117 を走る。飯山線は長野県信越本線の豊野と新潟県上越線の越後川口を結び、途中県境の森宮野原駅は鉄道では日本最高の積雪量 7.85m を記録した豪雪地帯。千曲川は信濃川と名を変えて、魚沼米に代表される田園地帯を流れていきます。

まずは上杉謙信が築いた、飯山城の城下町として栄えた飯山市を通り、野沢菜で知られる野沢温泉村へ。この野沢菜は地元健命寺の八代目住職・晃天園和尚が、京都から持ち帰った天王寺蕪の種を栽培したところ、蕪が小さく葉っぱが大きなものに育った。野沢温泉村は標高 600m、積雪の多い高冷地。温暖地育ちの天王寺蕪は、ここで突然変異をおこし「野沢菜」が誕生したという。そして、長野県最北端で豪雪地帯の栄村を過ぎると、新潟県の津南町に入る。ここ津南は信濃川沿いにあり、信濃川とその支流によって作られた河岸段丘は特殊な階段状の地形で、その規模は 9 段にも及び、日本一のものである。町では町会議員の選挙が行われていて、候補者の掲示板が設置されていた。津南物産館に 13.20 到着、ここで小休憩の後マイクロバスに乗り換えて、いよいよ目的地の秋山郷へ。

平家の落ち武者伝説が残る「秋山郷」

深田久弥の「日本百名山」に選ばれた苗場山と、日本二百名山の鳥甲山は秋山郷のシンボルといえる山。この2,000m級の山々に挟まれた秘境の地が秋山郷である。かつて江戸時代の越後の文人鈴木牧之を「再び命の洗濯にきたい」といわしめた秋山郷。「幽玄なる大自然に、旅する者を魅了してやまない、そこに12の集落がひっそりと今も熱い息づかいが.....」と紹介されている。旅行社の雑誌には、雪をいただく山と山に挟まれた盆地に、シラカバ林やブナの原生林が広がり二つの山は赤や黄色に美しく彩られ、藁葺き屋根の集落と、わずかばかりの耕地が見える。

そんな秋山郷を早く見て見たいという思いを乗せて、2台のマイクロバスは中津川沿いの国道405を快調に走る。14.00に蛇淵の滝に着く、ここで滝の見学と小休憩。この辺りはそんなに紅葉もなく、特別な景色でもなく滝も小さなものだった。お土産屋さんには木工品が多く並び、食べ物は漬物などが多くあった。そして、入り口には秋山郷を世に知らしめることになった、鈴木牧之と秋山郷の紹介パンフレットがあった。さらに奥へ進むと、南アルプス林道や白山スーパー林道で見たような、深い山々が錦絵のように色づき美しい景色が見られた。



前倉橋にて

14.50にビューポイントの一つである前倉橋に到着、深い溪谷にかかる赤い橋がひととき目立つ。付近の紅葉はさほどでもないが、周りの山々は赤や黄色がとても美しい。ここで少しだけ歩いて写真を撮り、お土産を買うともう出発の時間だ。団体行動では時間厳守が基本、ルールを守ってこそ旅は楽しい。

これで秋山郷の見学は終わり帰る事に、しかし、ゆっくり散策することもなくちょっと不満である。そのうえ来た道を帰るのでまたがっかり。確か林

道を通って志賀高原に出るコースだったと思ったのだが.....。津南に戻りバスを乗り換えることなく、そのままマイクロバスは国道 117.403 と走って、湯田中温泉の隣になる「よませ温泉スキー場」の「ホテル. セラン」に 17.00 到着した部屋は 410 号室。

眺めは抜群の宿だが.....

高台に建つホテルからの眺めは素晴らしいものだった。すぐ前にはススキが一面に穂をなびかせて、その向こうには街が広がっている。そして、さらにその背後には遠く山並みが連なり、まるで墨絵のようにうす暗くなった闇に浮かんでいる。

夕食は 18.00 からというので早速お風呂に、それも眺めの良い露天風呂へ入った。まるで山の中腹にあるお風呂みたいで、目の前をさえぎるものもなく、開放感抜群のお風呂でとても癒された。



ホテルからの眺め 湯田中の街

夕食はバイキングで特に変わったものでもなかった。しかし、レストランへ入ると受付のお姉さんが部屋別に指定席ですという、それは良いことだが見るとグループで申し込んだ友夫婦と離れた席になっている。同じテーブルにしてもらったのだが、今度は飲み物を頼んだら元のテーブルへ運ばれるで

はないか。受付の係りから飲み物の係りへ変更の連絡がなされていないのだ。ものごとは決めたとおりにいくとは限らない、つまり、異常が起きたらどのように対処するのかがとても大切なことだ。お客の席を変更するような時には、何と何をしなくてはいけないのか!! さらに、何故そうなったのかをフィードバックする仕組みがなくてはいけないのだ。が、そうした教育はなされていないようだ。

肝心の食事は特別なものでもなく普通だった、でもわが家の料理と比べれば高級品はあるし、品数は多くいうことなしだ。ビールも少しいただき良い気持ちだったので少し横になった。2時間ほどしてはっと気がつき、再度露天風呂へ向かった。露天風呂は午後から 22.00 までしか利用できないので、明日の朝は入ることができない。先客は 1 人しかいなかった、眼前には湯田中の街の灯りが、右手奥には中野の街の灯りがキラキラとイルミネーションのように美しい。さらに、空には 14 夜の丸いお月様がこうこうと輝きまるで別世界にいるようだった。

鉱山があった米子大瀑布でミニ登山

7.45 にホテルを出発して須坂市の温泉センター「湯っ蔵んど」へ向かう、米子大瀑布もここでタクシーに乗り換えて滝へ行くのだ。バスは一旦高速に乗り須坂・長野東 IC で降りる、ここ須坂市は蔵の街でたくさんの蔵が並び、散策するに趣のある街だ。そして、高さ 6m、30 段の雛人形が展示されている「世界民族人形博物館」がある。湯っ蔵んどへ 8.20 到着、ナナカマドの赤色が鮮やかでとてもきれいだ、小休憩してすぐ 5 台のジャンボタクシーに分乗、1.300m にある米子大瀑布の前進基地であるパーキングへ向かう。



温泉センター「湯っ蔵んど」



登山基地で説明する坪井さん

くねくね曲がりながら 30 分程で到着する、周りの山は紅葉がとても美しい。ここでガイドの坪井さんより米子大瀑布について、さらに山登りの注意事項などの説明を受けて 9.00 出発。途中には三箇所の休憩ポイントが決められてあり、ゆっくりゆっくり足元を確かめながら登る。30 分ほどで 1.400m の地点にある米子不動尊の奥の院に到着する。

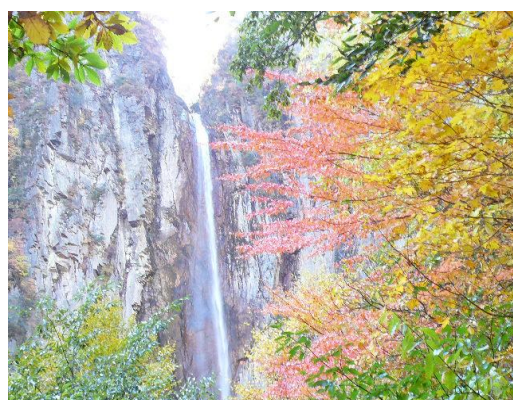
ここには季節営業の旅館が一軒あり、名物の「ひんのべ」が食べられる。これは味噌仕立ての「すいとん」といったものらしい。でもツアーのわれわれには時間がないので食べることはできない。それと不動尊というのもよく分からない、仏様は種類が多くそのうえ縁がないのでさっぱり分からないのだ。**不動尊(明王)**とは大日如来の化身で、すごい形相をして手に刀を持っている。これは人々の難を取り除くため、全ての人に利益を与える。人は死ぬと初七日に妙王の導きをうけるといわれている。

この不動尊から 5 分で不動滝に到着する、辺りが開けて目の前に断崖絶壁が現れるとそこに高さ 85m の不動滝がある。どこにこんなにたくさんの水があるのか、不思議に思えるほど絶え間なく水は流れ落ちている。素晴らしい景色だ、すぐ隣に幻の滝と呼ばれる黒滝がある。しかし、水はなく岩が黒くなっているだけである。大雨が降った時だけ滝が現われるのだ。

この不動滝から 3 分で権現滝だ、ここは木の間からしか見られない。しかし、周りの紅葉はとてもきれいだった。立派なカメラを手にした人が数人ファインダーをのぞいていた、それに広い場所がなくて、人が多いので少し立ち止まって見るだけといった感じなのだ。この不動滝と権現滝の二つをあわせて米子大瀑布と呼び、日本の滝百選に選ばれている。



不動滝 右の黒い部分が幻の黒滝



権現滝

ここから不動尊まで戻り川向こうへ 300m 行くと、二つの滝が見え米子大瀑布の標柱が建つビューポイントがあった。テレビでも紹介された場所とすぐ分かった。素晴らしい眺めである、さえぎるもののない広い視界に紅葉の山々と滝があり、遠くに別の山々の峯が浮かんでいる。でも、ちょっと不思議

議なのは自分たちが立っている地点は、地形が不自然なのだ。広い道路はあるし、きれいに整備された緑の斜面が続いている。

その謎は、ガイドの坪井さんの説明で納得できた。ここには昔、米子鉱山があって硫黄の採掘をしていた。それが廃鉱になって、掘った所を埋め戻したというのだ。採掘の盛んだった頃は 1,500 人の人々が暮らし、学校もあり映画館まであったという。



鉱山の跡地



紅葉の山並み

こんな山の中で暮らすのは大変なことだ、掘り出した硫黄はケーブルで運搬したが、生活物資は人が背負って運んだという。今のわれわれには考えられないことだ。しかし、硫黄が石油の精製から造られるようになり、昭和 30 年ころ廃鉱になった。

そんな歴史の勉強もしてパーキングまで戻った、時間は 2 時間の予定通りで 11.10 に着いたが、もう満車の状態だった。全員がそろろうと 5 台のジャンボタクシーはすぐに出発した、パーキングを出ると入りきれない車が延々と連なっているのではないかと。これは大変だ、滝を見て帰るには 2 時間かかるので、いくら待ってもパーキングに入れられない車も出てくるのではないかと思う。やはりこうした場所ではマイカー禁止にして、シャトルバスの運行に切り替えるべきだ。そうでないと、一度来て待たされた人はもう来なくなる。環境保全もあるが町の収入を確保するためにも、投資をして大駐車場を整備することが必要だと思う。

紅葉ばつぐんの松川溪谷

湯っ蔵んどに 11.40 着、ここで昼食・休憩となる。オプションで昼食を頼んだ人とは別の、体育館くらいの大きな部屋でゆっくり山菜そばをいただいた。ビールも少し飲みくつろぐことができた。

お土産に安いリンゴを買った、13.00 に出発して一旦須坂市に戻り、松川溪谷のある山田温泉に向かう。30 分ほどで山田温泉に到着する、狭い道を挟

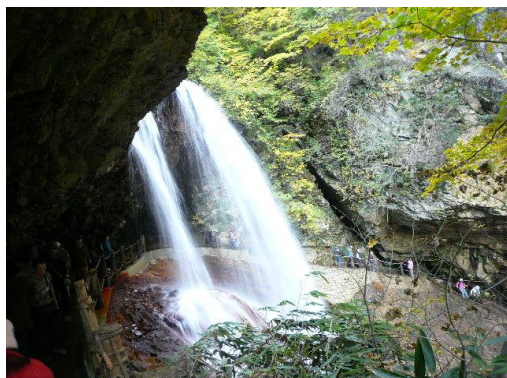
んで旅館が建ち並び温泉場らしい雰囲気漂う通りを進む。家並みが途切れると道路はカーブの連続である、そして、谷は深くなり楓やブナの紅や黄色の森が辺りを包み、美しい山の景色が広がってきた。今までで一番紅葉がきれいだと思った。



松川溪谷の紅葉

狭い道路を大型のバスや、マイカーがひっきりなしに行きかう。そんな中をバスは何事もないかのように進む、バス運転手の運転テクニックはすばらしい。最初に雷滝の見学をした、駐車場はなく道路にバスを止めて下車した。谷まで5分ほど急な坂道を下ると、しぶきを上げて水が流れ落ちている。この滝は裏側からも見える「裏見の滝」だった、近くまで行くと水しぶきが当たるので傘がほしいくらいだ。

滝の見学も終わり周りをゆっくり見回すと、山は美しい紅葉に包まれている、こんな所はゆっくり散策してみたいものだ。でも狭い道路は車がたくさん通り、人が歩ける状態ではない。多くのお客さんを、それも毎年呼び込むには遊歩道が必要だ。



裏側からも見える雷滝



この地形に造るのは大変と思うが、車で来ると道路は渋滞で駐車場もなくては、お客さんは寄り付かなくなる。自然こそ財産、そこに投資をしなくては街の将来は開けないと思うが.....。このあと八滝の展望台に寄って 14. 20 帰路に着く。

19. 40 名古屋駅着

栗で知られる小布施の街を通り 30 分ほどで中野に着き、中野ビアンデにて休憩。ここの売店で面白いものを見つけた、キャラブキのようなゼンマイのようなもので「山くらげ」という。味見をしたらなかなかいける味で、つまみによさそうなので一袋買った。そして、ここの買い物を最後にすべての予定も終わりを迎え、15. 20 バスは名古屋に向かう。途中からは、釣りばか日誌のビデオを楽しんでいるうちに、駒ヶ岳 SA と内津峠 PA で休憩して 19. 40 名古屋駅に到着した。